

# すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成 25 年 8 月 26 日 発行  
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.7



## 9月7日の公開対話に向けてスタート 問いのお題+チームが決定！

8月3日  
土曜コース

過去に出された問いのお題で良いと思ったもの、さらに改良すべきもの、また自分で考えてきたものなどをグループで考える。

発表！



出された問いのお題を見て、公開対話のお題提供者として、名乗りを上げる。



チームをつくる。チーム内で、ファシリ、運営担当を決める

チームで問いのお題に対する答えを、考える限り、出してみる。



皆で回って、各チームの問いのお題の答えを書き込んでみる。→さらに答えの多様性と傾向がわかる！

書かれた答えを整理する。それぞれの違いは？その根拠は？



### ■学びを実践してみる

哲学対話を行う意味がどうしてあるのか？ファシリテーターはどうやっておこなう？問いを深めていく対話のやり方…今までの5回、対話を行いながらこんなことを学んできた。その過程で色々な気づきを得られたはず。さあ、次は受講生が「対話の場」をつくる番だ。自分の中だけでなく、ぜひ地域で、さまざまな場で、「生活の中で考えることの素晴らしさ」を広めていってほしい。そんな思いから、受講生の運営による「哲学対話」を9月7日に実施することにした。お客様を招くのだから、受講生のみなさん、ちょっと緊張の様子。

### ■「違い」に敏感になろう

チームを作るまでの流れは、左記のとおりだが、やはり問いを皆で考えることは楽しい。ほんのちょっとした日常の疑問でも、哲学対話として成立しうるということがよくわかる。受講生のみなさんも、他の方の発言に「ほお～」「あーあー、なるほど」と、どよめいたり笑ったりで、思いを全員で共有できる時間として貴重である。

そんな風に決めたチームの問いに、どんな答えがあるのかを講座内で全員に考えてもらった。答えが多ければ多いほど、他の人の思わぬ視点に驚かされる。その違いは何なのか？出された答えの違いを分類分けする「軸」を見つけることにより(例えば、法律から？社会的存在として？)、哲学対話をする中でさまざまな意見が出たときに、対応できる。「場」を運営する戦略も大事になってくるという事、大変だ～(～;)

「まずは、やってみる。」そんな大人塾名物の電撃公開講座、今年を受講生の中にどんな新しい発見が生まれるであろうか？(湊)

### 決まった！7つの問いのお題

- ① 人生の価値・意味とは何か？
- ② 人はどこまで助け合うべきか？
- ③ 日本の若者は幸せなのか？
- ④ 車の来ない赤信号、渡る？渡らない？
- ⑤ ご近所づきあいは必要か？
- ⑥ 大人って何？
- ⑦ 本当に客観的に見るにはどうする？

みんなでやろう！



## ニコニコロード「だがしや楽校」をふりかえろう!

### ふりかえりの言葉

講座内での  
ふりかえり時間  
にて

・非常に楽しかったが準備時間が少なかった。お客さんと熱心に話ができて、ふれあいができた。通りの狭さがちょうど良い。(小峯) ・商店会の女将さんがとても良い人でやりたいことをやらせてくれて感謝。有線放送のそばにずっといたため、外の様子が分かりにくい。(三谷) ・ピアノの演奏をしようと思ったが、お客さんと一緒にやれて良かった。“とにかくやってみる”が今までの人生になく驚いた。(林野) ・説明書きを詳しくすれば良い。呼び込み役がいても良い。南の島風CDを流すとなお。(石川) ・次のことで頭がいっぱい。「次はいつやるの?」と言われる位になりたい。(梅田) ・準備もみんなでも楽しくやると良い(磯村) ・くじ引きの額プレゼントでお客さんと話せて良い。他の自分みせをもっと理解したい。仲間とのつながりを作りたい。(川名) ・集客が難しいが、たくさん来ると疲れるので、ほどほどに。(小嶋) ・通常講座の中でも他者の個性が見えて楽しい。イベントだけでなく、“いつも”の回も大事にしたい。(橋爪) ・初めての自分みせは楽しくできた。やる内に段々良くなるのでは。(高橋) ・不特定多数の人が集える場ができたのは良い。だがしや楽校は、自分みせのできる人と他者とのつながりが少ない人とも一緒にできそう。(田中)

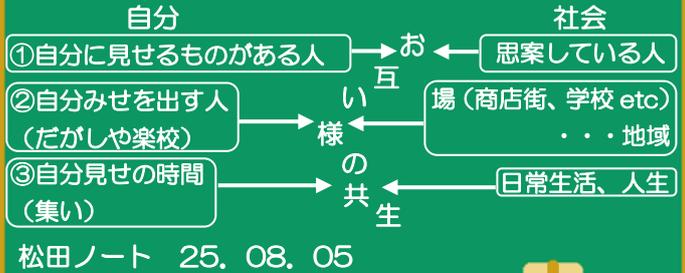
◆ふりかえりはお茶飲み談義で…

今回は、8月4日のニコニコロード商店街でのだがしや楽校を終えてすぐの大人塾。だがしや楽校をやりっぱなしで終わらないためにも、グループになって話し合いながらふりかえることに。ここで松田さんから「自分と社会(他者)との関係の中でどうお互い様の共生が育めたか」というふりかえりの視点が提案された。

具体的には、①何か見せられる人だけの集まりになるのではなく、どう周りの人を巻き込むか、②だがしや楽校をする側だけのメリットではなく、だがしや楽校の場所(商店街、学校 etc)にとってどうメリットをつくるか、③だがしや楽校が一度きりのイベントに終わらず、どう日常生活に活かせるか、という3点が示された。(下記参照)これを踏まえたお茶飲みながらのふりかえりは左記をご覧ください。

このだがしや楽校は、松田さんの言葉を借りれば「失敗が許される大人の社会体験の試み」だ。左記のふりかえりも、“まずやってみた”ことで表れた言葉だ。講座の最後にはもう一度だがしや楽校を開こう、ということも決まった。これからの大人塾で、行きつ戻りつ学んでいこう! ㊞

#### だがしや楽校 自分みせ 体験からの視点



### 《コラム》だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。「この人と一緒に何かしたい!」という方は事務局まで!

4回目は、23年度のだがしや楽校を卒業された、池ヶ谷さん。今でもあちこちの児童館等のイベントでだがしや楽校仲間と精力的に自分みせを開いているそうです。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは?



#### □大人も子どももともに遊べる楽しさ

坂本(以下、坂):「最近の様子を教えてください」

池ヶ谷(以下、池):「区内の児童館や永福町の商店街のイベントでだがしや楽校を開いています。子どもから元気をもたらすことが多く、楽しんでます。」

坂:「あなたにとって、だがしや楽校とは?」

池:「無理強いしない関係がある場です。休日に周囲に話す人がいなかった私にとっては、心地の良い場所です。」

坂:「読者に向かってひとことどうぞ!」

池:「物でも文字でも自分自身を表すと、頭が整理されて柔らかくなりますよ。」

◆すぎなみ大人“熟”してる?の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。